

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 田原西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 41人

② 算数 41人

5 留意事項

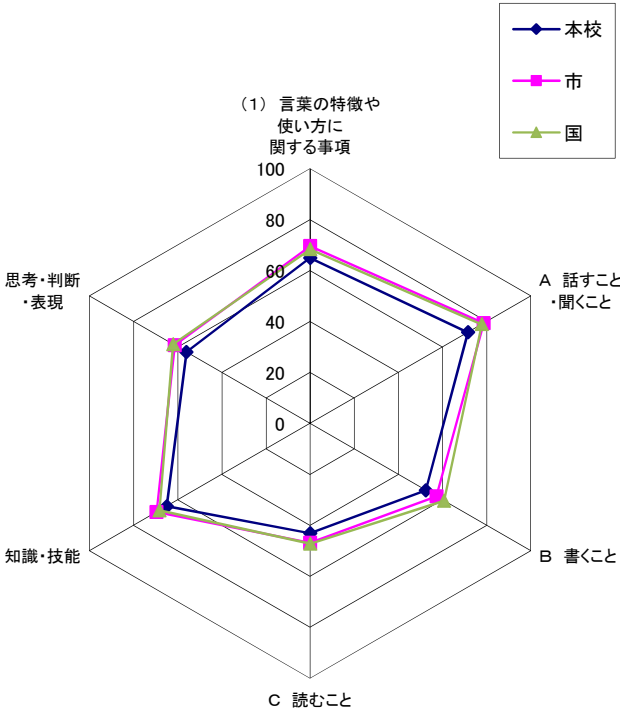
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.0	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	71.5	78.7	77.8
	B 書くこと	52.4	57.3	60.7
	C 読むこと	43.1	46.9	47.2
観点	知識・技能	65.0	69.6	68.3
	思考・判断・表現	56.1	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

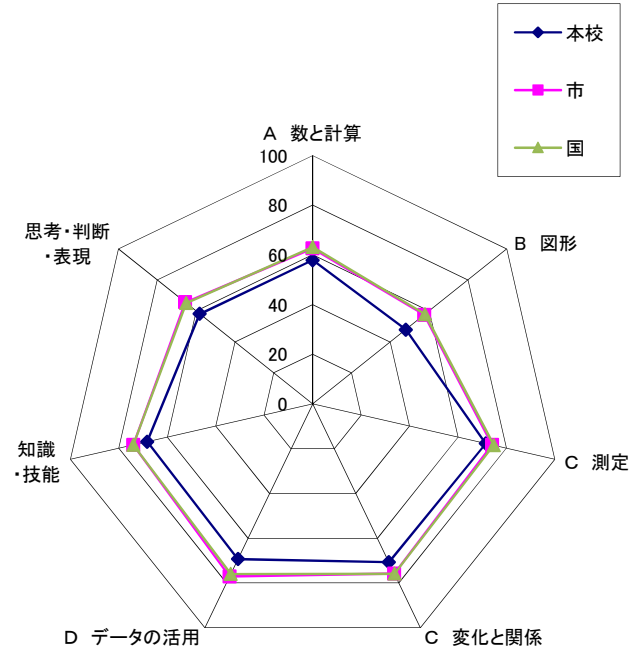
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	・平均正答率は全国や県を下回っている。 ○漢字の問題では、言葉によっては全国や県の平均を上回っているものもあるが、大きく下回っているものもある。 ●文の中における主語と述語との関係を捉える問題や修飾と被修飾の関係を捉える問題では、全国や県を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字については、繰り返し練習するだけでなく、漢字の持つ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるように指導していく。 ・主語、述語、修飾語の関係を捉える問題は、朝の学習の時間や宿題等を活用して繰り返し練習問題に取り組むなどし、定着を図っていく。
A 話すこと・聞くこと	・平均正答率は全国や県を下回っている。 ○スピーチ原稿を読み、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題では、全国や県の平均と同等であった。 ●スピーチ原稿の中で、資料を用いた目的を理解したり、目的や意図に応じて資料を使って話したりする問題では、全国や県を下回っている。	・国語だけでなく、各教科で話し合いの活動を多く取り入れ、話し手・聞き手、それぞれの立場から意見や思いを積極的に理解し合う経験を積ませる。 ・資料を用いた意図を捉える問題の正答率があまり高くないので、他教科の学習とも関連を図りながら、文章以外の資料を適切に読み取る力を身に付けさせていく。
B 書くこと	・平均正答率は全国や県を下回っている。 ●目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように文章に書き表す問題では、全国や県の平均を大きく下回っている。特に、無回答の児童の割合が22%で、全国や県に比べてとても高い。	・日常生活の中で、授業の振り返りや短作文などを多く取り入れ、キーワードを入れたり字数制限を設けたりして条件に合う文章を書けるように繰り返し指導していく。 ・一人一冊もっている作文帳を日記だけでなく、行事の振り返り等にも活用し、様々な場面を通して自分の考えや思いなどを文章で表現する機会を増やし、目的に応じた文章表現のスキルを高めていく。
C 読むこと	・平均正答率は全国や県を下回っている。 ○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題では、全国や県の平均をやや上回った。また、目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける問題では、全国や県の平均と同等であった。 ●目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題では、全国や県の平均を大きく下回っている。文章全体を概観して効果的に読む力が必要である。	・音読を授業の中に意図的に取り入れ、言葉や文をまとまりとして全体を捉えることができるように練習をしていく。 ・説明文の段落や構成を読み取る際には、指示語や接続語の役割に目をつけさせ、文の主旨や内容を理解できるように授業の中で丁寧に取り組んでいく。 ・様々な分野の本に親しむことができるよう、日々の読書を奨励したり、図書館司書と連携した読書活動を取り入れることで、より充実した読書体験をさせることで、読解力を高めていけるようにする。

宇都宮市立田原西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	57.9	62.6	63.1
	B 図形	48.0	57.5	57.9
	C 測定	71.5	74.1	74.8
	C 変化と関係	70.7	75.8	75.9
	D データの活用	69.3	77.1	76.0
観点	知識・技能	68.3	74.1	74.1
	思考・判断・表現	58.2	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は全国や県を下回っている。 ○道のりの差を求める設問では、平均正答率が全国や県の正答率を上回っている。 ○余りのある除法で余りの処理が必要な設問では、平均正答率が8割を超え、全国や県の正答率を上回っている。 ●商が1より小さくなるわり算の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をする設問では、平均正答率が4割で全国や県の正答率を大きく下回っている。 ●基準量を1としたときに比較量が小数に当たる理由を記述する設問では、平均正答率が4割以下で、全国や県の正答率を大きく下回っている。	・除法の場面では、何が被除数で、何が除数かを捉えて立式できるように指導していく。特に商が1より小さくなる除法の場面では、図で問題場面を表すなど具体的な方法を示し、立式につなげられるように指導を工夫していく。 ・小数を用いた倍についての理解を深めるために、倍の意味を捉え直し、基準量を1としたときに比較量がいくつに当たったのかという意味について理解できるように指導をしていく。特に第2学年からの倍の学習において、図などを用いて基にする大きさを意識できるように工夫して指導をしていく。
B 図形	平均正答率は全国や県を下回っている。 ●直角三角形の面積を求める設問では、平均正答率が4割で全国や県の正答率を大きく下回っている。また、直角三角形を組み合わせた図形の面積を求める設問でも、全国や県の正答率を下回っている。 ●二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積を求める設問では、平均正答率が4割以下で、全国や県の正答率を下回っている。	・三角形や平行四辺形の面積を求める場合には、底辺と高さの関係の理解を確実にし、図形を構成する要素に着目して求積のためにどの部分の長さを図る必要があるか授業の中で考えさせることで、面積を求める公式についての理解を深め、活用できるようにしていく。また、複数の図形を組み合わせた図形の面積を求める場合には、図形を分割して並べ替えても、移動して並べ替えても面積が変わらないことを具体的な操作を通して理解できるように工夫して指導していく。
C 測定	平均正答率は全国や県をやや下回っている。 ●条件に合う時刻を求める設問では、平均正答率が全国や県の正答率をやや下回っている。	・時刻と時間についての学習では、開始時刻と終了時刻、所要時刻の関係を捉えられるように指導を行っていく。特に、正時をまたいだ時刻を求める場合には、正時を区切りとして時刻を考えられるように助言するなど、工夫して指導を行う。
C 変化と関係	平均正答率は全国や県を下回っている。 ●速さに関する設問では、平均正答率が全国や県の正答率を下回っている。特に、速さを求める式の意味を理解する設問では正答率が5割と低い。	・速さについて、どちらが速いかを調べる場合には、時間と道のりのどちらを単位量にするかによって商の意味が異なるので、授業において単に速さを求めるだけでなく、複数の速さを比べる場面を設け、「どうして早いと分かるのか」問いかけ、速さを比べることの意味を理解できるように指導していく。

D データの活用	平均正答率は全国や県を下回っている。 ○棒グラフを読み取る設問では、正答率が9割を超えている。 ●二次元表に分類整理する設問では、平均正答率が全国や県の正答率を下回っている。 ●複数の帯グラフを比較する設問では、平均正答率が3割と全国や県の正答率を大きく下回っている。また、集団の特徴を捉えるための適切なデータを選択する設問でも、正答率が全国や県を下回っている。	・二次元表に分類整理する学習では、単に数値を読み取るだけでなく、目的に応じて集めたデータを二つの観点から4つの場合に分類できるように指導をしていく。 ・複数のデータを分析する場合には、それぞれのグラフのどの部分に着目したのか説明する活動を設定するなど、工夫して指導を行っていく。また、日頃から様々な教科でグラフや表などの資料から情報を読み取る活動を効果的に取り入れ、グラフや表を活用する力を身に付けさせる。
----------	---	---

宇都宮市立田原西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」に対する肯定的割合が、県や全国の平均に比べて高い。インターネットを安全に使う方法を児童に日々指導し、家庭への啓発を行っている効果だと思われる。

○「5年生までに受けた授業で、学級の友達の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。」に対する肯定的割合が、県や全国の平均に比べて高い。相手の話も受容的に聞くことができるよう、今後も指導していく。

○「算数の授業の内容はよく分かりますか。」算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか。」に対する肯定的割合が、県や全国の平均に比べて高い。授業で学んだことを実生活にも生かそうという姿勢が見られた。

○●「国語の勉強は大切だと思いますか。」国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしていますか。」の肯定的割合が、県や全国に比べて高い。児童たちの国語への意識が高いように思われる。しかし一方で、「国語が好きですか。」の肯定的割合は、県や全国の割合とそれほど変わらない。

●「自分には、良いところがあると思いますか。」に対する肯定的回答が、県に比べて10%以上も下回っている。特に、「当てはまる」と回答している児童の割合が県に比べて約14%も低い。児童たちの自己肯定感を高めていくことができるような声掛けをもっとしていく必要がある。また、家庭とも連携し、児童の良いところを自覚させていきたい。

宇都宮市立田原西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自らの思いを表出し、学び合う楽しさを味わう児童を育成する。	・教師の授業をコーディネートする力を高めるための研修を行っている。 ・国語の「書くこと」の領域を中心に、授業や日常生活の中に書く機会を意図的に位置付け、具体的な方法を指導している。	・国語の「書くこと」の領域の平均点が、全国に比べ約8点、市に比べ5点下回っている。特に、文章を書く問題では、無回答児童が多かった。 ・「学級の友達の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか。」に対する肯定的割合が、県や全国の平均に比べて高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「国語の勉強は大切な」、「国語の勉強は将来役に立つか」に対しての肯定的回答は県や全国に比べて高いが、どの領域でも県や全国の平均に及んでいない。算数も同様である。	・文章で表現する機会を増やす。 ・既習事項や、基礎を固める。	・国語の学習においては、様々な場面を通して自分の考えや思いなどを文章で表現する機会を増やし、目的に応じた文章表現のスキルを高めていく。 ・算数の学習においては、どの領域においても基礎を固めることを重点とし、前学年までの学習も適宜取り入れる。